

駿河湾の深海魚 (14)

ブタハダカ (その2)

久保田 正 ・ 佐藤 武

ブタハダカ (*Centrobranchus brevirostris*) は、ソ連邦当時のソ連科学アカデミー海洋研究所に所属していた魚類学者の Becker, V. E. によって 1964 年に新種として発表されました。本種の種小名は、ラテン語で ” 短い吻 ” を意味します。これは吻端の形状に由来して名付けられたと思われます。また、和名のブタについても本属に共通する吻の形状と関係がありそうです。日本近海からは本種のほかにマルハナハダカ (*C. andreae*) とナガハナハダカ (*C. chaerocephalus*) を合わせて 3 種が報告されています。

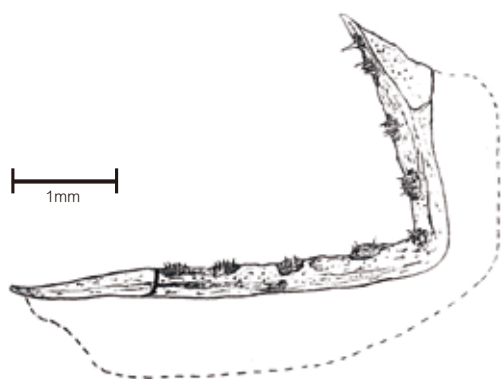


図 1. ブタハダカの第1鰓弓の鰓耙 (左)
体長 26.0mm、雌、
1963 年 8 月本州南方海域採集

またブタハダカ属には上記の3種のほかにインド洋や大西洋域には *C. nigroocellatus* という種が分布しています。著者の久保田がハダカイワシ類の研究を開始した頃は、日本近海から採集したブタハダカはこの種とされていました。丁度その頃 Becker が本属の分類学的研究を行い、その結果北太平洋の温帯の広い海域に分布する個体は新種であるとして *C. brevirostris* と命名しました。このように本属に含まれる種類は現在世界中の海から 4 種に整理されています。

ところで、ハダカイワシ類の多くの種類の胃内容物には、いろんな種類の甲殻類プランクトンが見られます。一方、ブタハダカ属魚類の食性は、本誌第 36 号 9 頁で紹

介したように翼足類および異足類を主体とした浮遊性軟体類プランクトンです。このことは、図 1 に示したように鰓耙が退化し、短い棘が束になって塊を形成する鰓歯 (さいし) に変化していることと関係します。本属にみられる独特な鰓耙の形状が、本科魚類のほかの属にみられる甲殻類プランクトン食の種類とは違っていることが大きな特徴です。

本州南方海域から採集した 50 個体の胃内容物を調べた結果、翼足類および異足類などの浮遊性軟体類プランクトンが優先しています。その他にはわずかな個体が、かいあし類の *Pleuromamma*, *Oncaea*, *Corycaeus* さらにオキアミ類や尾虫類などを捕食しています。捕食率 [(胃内容物重量 / 魚体重) × 100] の平均は、4.3% です。この数値は、夜間海面まで上昇し、甲殻類プランクトンを捕食するハダカイワシ類とほとんど同じです (一方、夜間中層上昇の魚類では平均 1.5% 以下)。特に本種には 11.0% 以上の高い個体もみられます。図 2 では、本種と近縁な 3 種の餌生物組成を比較しています。ブタハダカ属魚類は、海域が違ってても浮遊性軟体類プランクトンの捕食者です。

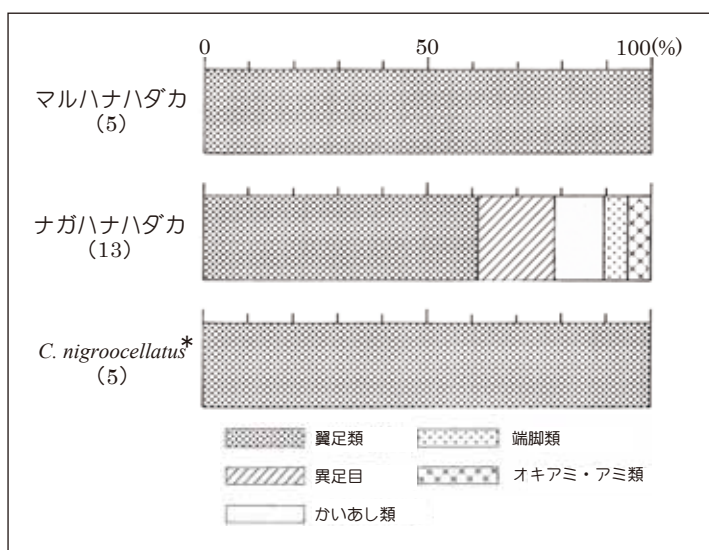


図 2. ブタハダカ属 3 種の餌生物組成の比較
和名または学名の下 () 内の数字は調査個体数
*: インド洋で採集の個体